

はじめに

豊かで広い和紙の世界

「和紙」と聞くとみなさんは何を思い浮かべるでしょうか。この100年で日本人の生活は大きく変わり、ふだんの暮らしの中で、和紙はあまり見かけなくなりました。それは西洋（ヨーロッパやアメリカ）で生まれた「洋紙」が使われはじめたからです。洋紙は早くから機械化が進み、大量に安く作られました。これに対して和紙は、中国から伝わり1500年もの間、日本の風土で育ち、みがかれてきましたが、手作業で作られてきたために、一度に大量に作ることはできませんでした。今でこそ、洋紙が主流になりましたが、少し前の日本では、いろいろなものを和紙で作り、生活に役立てていました。障子や襖など今も見られるもののほか、傘や本、おもちゃなど、暮らしのあちこちに和紙が使われていたのです。

現代のわたしたちの暮らしでも、自然資源で作られる、うすく、強く、じょうぶな和紙のすばらしさ、そのよさは見直され、世界にも知られるようになりました。今ではユネスコ無形文化遺産としても認められています。

このような和紙がどんな技術で作られ、どんな背景があるのか、いっしょにたずねてみましょう。知れば知るほどに、日本の和紙の文化の深さを知り、そのすばらしさがわかるはずです。



もくじ

和紙の世界へようこそ・・・4

- 和紙の魅力① 和紙と暮らし・・・・・・・・4
- 和紙の魅力② 遊び・雑貨・文房具・・・・・・・・6
- 和紙の魅力③ 和紙アート・折形・金唐紙・・・・・・・・8



和紙って何？・・・10



和紙の種類を知ろう・・・12

- 原料で知る・・・・・・・・12
- おもな産地で知る・・・・・・・・13
- 使いみちで知る・・・・・・・・14

日本各地の和紙産地マップ・・・16



和紙の技を見てみよう！・・・18

- 手すき和紙のスゴ技① 大きな紙も均一にすく技・・・・・・・・18
- 手すき和紙のスゴ技② 無形文化財3つの技・・・・・・・・20
- 機械すき和紙のスゴ技・・・・・・・・22



手すき紙を作ろう・・・24

もっと和紙を知ろう・・・26

- 和紙の歴史・・・・・・・・26
- 広がる和紙の世界・・・・・・・・28
- 和紙と祭り・・・・・・・・30
- 和紙職人になるには・・・・・・・・31



和紙の種類 を知ろう

原料のちがいやすき方、技法の組み合わせによって、さまざまな種類の和紙ができます。また、産地や使う目的によっていろいろな紙が生まれるのです。

原料で知る

和紙の原料のコウゾ・ミツマタ・ガンピ。それらを使って作る、代表的な紙を知りましょう。

コウゾ紙

強くてしろうぶな紙なので、たいせつな公文書や経典、書籍などに使われてきました。和紙の代表的なものです。障子紙や襖紙、書画用紙などの材料としても用いられます。



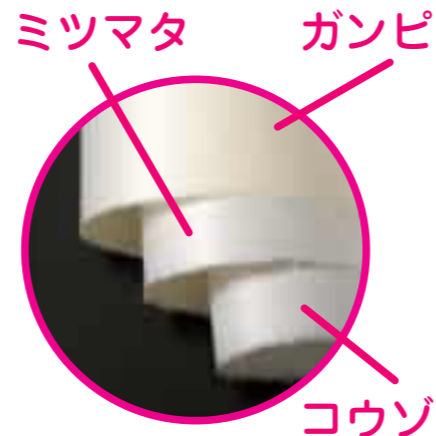
ミツマタ紙

うすくてしろうぶ、繊細で光沢もあり、なめらかな紙で、いろいろな目的に広く使われます。墨・インクの両方との相性もよく、明治時代から紙幣（お札）や金・銀箔を保護する箔合紙の材料などにも用いられています。



ガンピ紙

繊維の目が細かく、うすくなめらかで、しろうぶであり、虫の害にも強いので、「紙の王」とよばれていました。平安時代には、かな文字を書いたり写経や手紙などの用紙として使われていました。



おもな産地で知る

和紙は全国各地で作られています。それらはそれぞれの土地に合った深い歴史をもっています。全部は紹介できませんのでおもなところを紹介します。
(全国の産地は16～17ページ参照)

かどいで 門出和紙 (新潟県)

コウゾを原料にした紙で、たこ 鳳にはる紙として有名でした。障子紙や書画用紙などに使われます。



ほんみのし 本美濃紙 (岐阜県)

紙質が強く、うすくてしろうぶなので本や、文書の写し、書状の包みなどに使われます。障子紙としても使われています。



えちぜんほうしよし 越前奉書紙 (福井県)

将軍の命令を部下の名で出す「奉書」という書式から、のちに奉書紙といわれるようになりました。シワがよりにくく厚手のふっくらとした紙で、お祝いの目録などを書く用紙として使われます。



せきしゅうばんし 石州半紙 (島根県)

石州和紙の中でも石州半紙が有名です。しろうぶで帳簿などに使われてきました。そのほか、書籍・短ざく・名刺など、いろいろな目的に使います。



ほそかわし 細川紙 (埼玉県)

細川紙は埼玉県の小川町と東秩父村で作られています。原料はコウゾのみを使い、ネリはトロロアオイを使い、その作り方は薬品などを使わない昔ながらのものです。



すぎはらがみ 杉原紙 (兵庫県)

コウゾが原料で、昔、武士や僧侶が使う贈り物の包みに使ったり、武家の公文書などに多く用いられたりしました。奈良時代から1300年ほどの歴史をもちます。



いよ 伊予和紙 (愛媛県)

江戸時代中期に和紙作りがはじまったといわれています。コウゾを使って、作られていました。書道の半紙や版画を摺るのに使ったり、のし袋や免状用紙、襖紙に使われたりします。



とさ 土佐和紙 (高知県)

平安時代からの和紙の産地で、明治時代には全国一ともいわれていました。土佐典具帖紙は、日本一うすい和紙といわれ、美術品・文化財などの修復などに使われています。



日本各地の和紙産地マップ

日本全国にはたくさんの和紙の産地があります。貴重な和紙文化を未来へつなげるために、手間のかかる和紙作りを、今も各地で続けているのです。

※このマップは、「全国手すき和紙連合会」の資料をもとに、2014年12月に調査したものです。



佐賀県

名尾和紙

コウゾの原種「カジ」を使った和紙で、その栽培から和紙作りがはじまります。透明感のある質感が特徴です。



岐阜県

美濃和紙

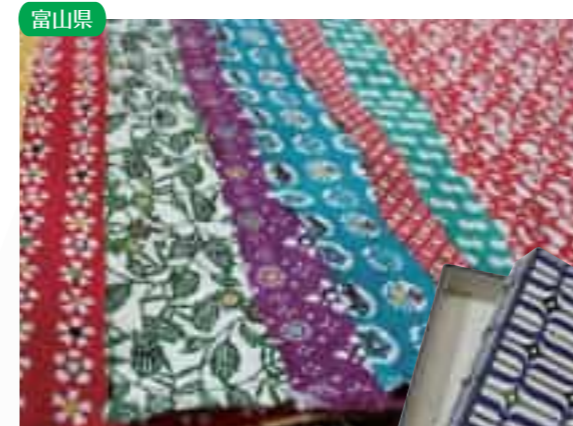
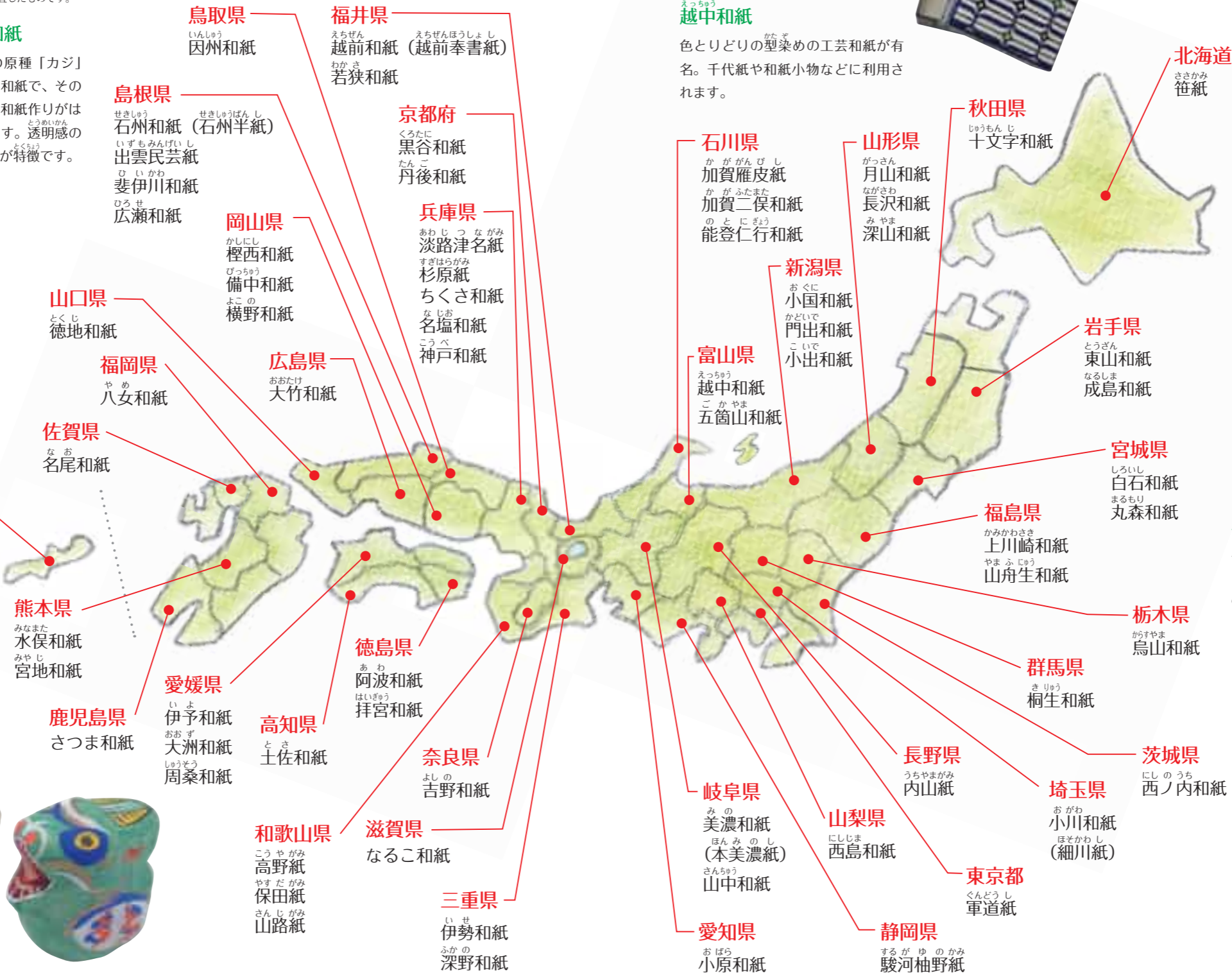
美濃和紙の特徴を生かした「岐阜提灯」。お盆や七夕かざりなどに使われます。



高知県

土佐和紙

全国的にも有名な和紙の産地。小物やインテリアなどに利用されています。写真はクジラ(上)とタツ(右)の「土佐和紙雁皮張子」。(→13ページ参照)



越中和紙

色とりどりの型染めの工芸和紙が有名。千代紙や和紙小物などに利用されます。



山形県

深山和紙

400年以上の歴史のある、コウゾを原料とした和紙。もみ紙も多く作られ、和紙人形などに活用されています。



岩手県

成島和紙

和紙の接着剤にノリツギを使い、そのノリツギが育つ本州の北限が岩手県となるため、最北の和紙といわれています。そばく風合いが特徴です。



福島県

上川崎和紙

二本松市では1000年をこえるコウゾ和紙の歴史があります。紫式部や清少納言が愛用した「まゆみがみ」が作られていたといわれています。



長野県

内山紙

美濃和紙の技術が伝わり、江戸時代に強靱な障子紙として有名になりました。そのしょうぶさを生かし、新潟県の「白根大風合戦」の大風(畳24枚分)にも使われています。

和紙の技を 見てみよう！

越前和紙（福井県）には、何百年も受けつがれる技があります。昔ながらの手すき和紙と、大量生産を可能にした機械すき和紙の技を紹介します。

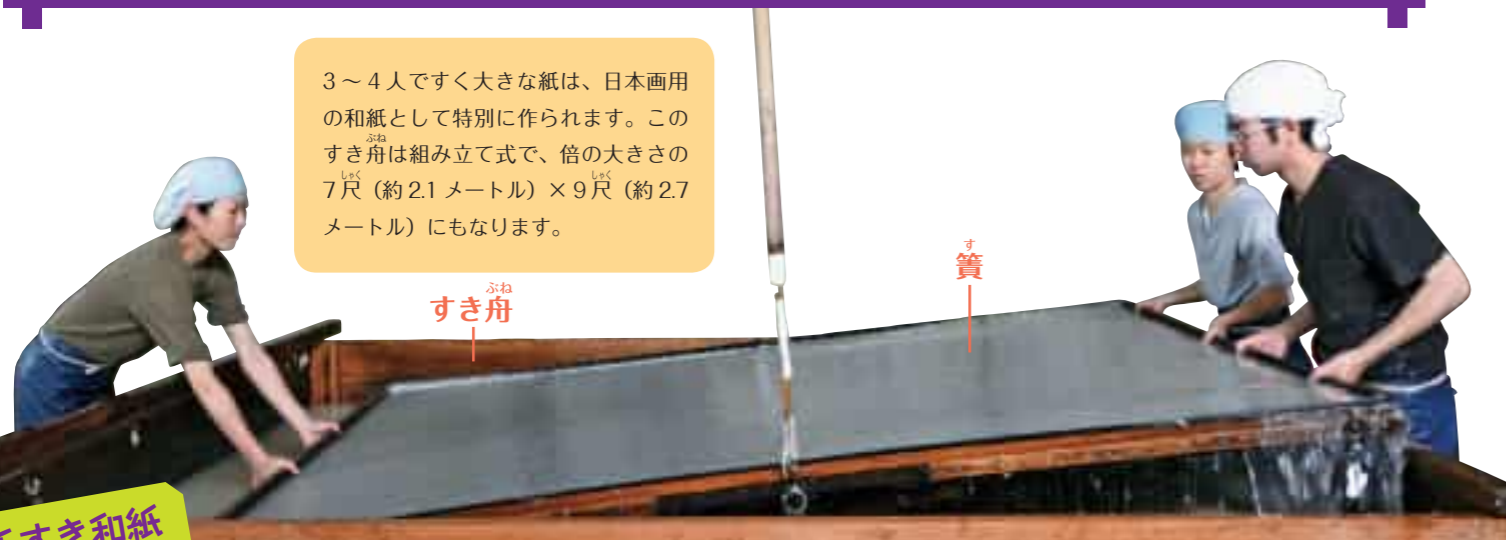
すき終わった紙は簀ごとクレーンで持ち上げ、重ねていきます。



手すき和紙のスゴ技① 大きな紙も均一にすく技

材料の用意から紙すき・出荷まで、多くの人が協力し合い、よりよい紙作りを目指します。

3～4人ですく大きな紙は、日本画用の和紙として特別に作られます。このすき舟は組み立て式で、倍の大きさの7尺（約2.1メートル）×9尺（約2.7メートル）にもなります。



手すき和紙 基本工程

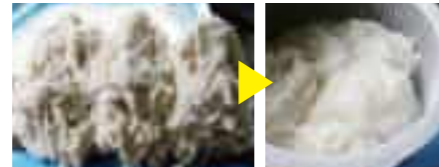
- 1 原料用意
- 2 煮る
- 3 ちり取り
- 4 ほぐす



紙の原料となる植物と、つなぎとなるトロロアオイを用意。



原料に葉を入れて煮て、繊維をやわらかくし、白くします。

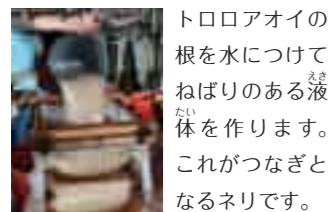


繊維をほぐしながら、ちり（ゴミ）を取ります。



繊維をほぐします。昔は木づちなどでたたきました。

5 「ネリ」作り



トロロアオイの根を水につけてねばりのある液体を作ります。これがつなぎとなるネリです。

6 紙料液を作る



水に、4と5をとかして、紙の原料液（紙料液）を作ります。

7 すく



紙料液を何度もすくい、紙を作ります。

8 乾燥



1枚ずつ板にはり、乾燥室に入れます。外に干す場合もあります。

紙料液作りの技

和紙のもととなる紙料液は、植物の繊維とネリを水にとかしたものです。作る紙の種類により、植物やネリの濃度など、細やかに調整します。

ちり取り
ほんの少しのゴミも
見のがさない！



繊維を水にはなし、大きいちりから小さいちりまで、段階に分けて取りのぞきます。繊維は取らないよう、ていねいに。

ネリ作り
温度によって
ネリがちがう



ネリは温度が高いとねばりがなくなるため、とくに夏は作りおきできません。ちょうどよい濃度になるよう、複数の容器で管理します。

手すきの技

襖紙などの大きさの、2人ですく技を見てみましょう。

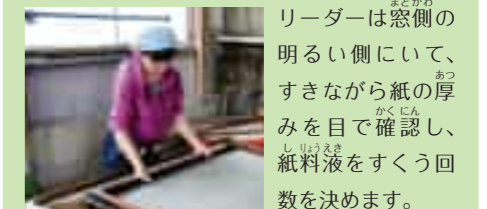


紙すき
光の透け加減で
うすさを確認

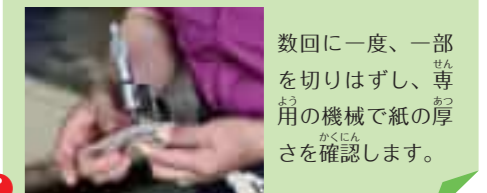
呼吸を合わせ、交互に紙料液をすくい、少しずつ紙の厚みを作ります。紙料液が少なくなってくると、濃度がうすくなるので、数多くすくう必要があります。

リーダーは窓側

2人以上ですく場合は必ずリーダーがいて、すべてをチェックします。リーダーになるには10年ほど修行をつみます。



リーダーは窓側の明るい側において、すきながら紙の厚みを目で確認し、紙料液をすくう回数を決めます。



数回に一度、一部を切りはずし、専用の機械で紙の厚さを確認します。

紙すきの流れ

以下が、紙すきの一連の流れです。これを何度も繰り返し、1舟あたり1日数十枚の紙を作ります。



すき舟に材料を合わせて紙料液を用意します。

簀で紙料液をすくい、生紙を作ります。

簀ごと移動して、生紙をぬらした布の上に重ねます。

簀をはずします。

上にぬらした布をかぶせ、生紙どうしがくっつかないようにします。

※ 2人すきの紙のサイズは、3尺5寸（約1メートル）×6尺5寸（約2メートル）。3・6制という。